

中期目標の達成状況に関する評価結果

熊本大学

平成29年6月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
(法人の達成状況報告書から転載)		

評価結果

《概要》	7
《本文》	11
《判定結果一覧表》	21

法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

熊本大学は、生命科学、自然科学、人文・社会科学の各分野にわたる、充実した学部、大学院、研究所等を備えた、我が国を代表する研究拠点大学としての役割を果たす。そのために、アジア諸国はもとより広く海外の諸大学等との人的・文化的交流を通じて、「人の命、人と自然、人と社会」に関する活発な研究活動を推進し、その成果を基盤として教育・研究の国際性を高め、大学院教育においては、国際社会のリーダーとして活躍できる先導的研究者及び高度専門職業人を養成する。学部教育においては、その基礎としての幅広い教養を持ち高度な課題解決能力を有する人材を育成する。また、教育・研究活動の成果を活用して、広く地域及び国際社会に貢献する。

熊本大学は、上記の目的を達成するために、特に次のような取組みを推進する。

大学院においては、国際的通用性の高い教育プログラムやカリキュラムを整備するとともに教育の実質化をより一層推進する。学士課程教育においては、学習成果に基づいた教育プログラムを整備するとともに創造的知性と実践力に重点を置いたカリキュラムを充実する。また、各課程の目的と学位授与の方針に則し、明確な評価基準に基づいた学習成果の検証によって、学士課程教育及び大学院教育の質を向上させる。

研究においては、真理の創造と発見のため、国際的な先端拠点研究の推進に加えて、拠点形成研究等を通しての質の高い研究及び研究者の自由な発想に基づく基盤的・先導的研究を推進することを通して、国際的な視野に立って、将来の学術研究の推進を担うことのできる人材を育成する。

このような教育・研究の成果を、イノベーション推進機構を中心として知的財産等の活用を推進するとともに、地方自治体及び地域の大学等と連携し、魅力ある地域づくり、地域文化の向上、教育の質向上等の取組みを推進する。

国際化の推進においては、国際化推進機構を核として、国際化環境を整備して教育研究の国際化基盤を確立する。特に、九州との関わりの深い環黄海地域を中心に東アジア諸国との国際交流を強化するとともに、新興諸国との連携を拡大しながら、将来構想としての世界水準の教育研究と国際的に通用する人材育成のための「グローバルアカデミックハブ（国際的な知の拠点）」の形成を進める。これらの活動を通して、名実ともに九州を代表する国際化推進拠点大学としての役割を果たす。

1 [沿革と立地]

本学は、第五高等学校等の旧制諸学校を母体として、昭和24年に発足した総合大学である。キャンパスは、黒髪地区、本荘地区、大江地区の3つのキャンパスに分かれており、黒髪地区に、本部（熊本市中央区黒髪2丁目39番1号）を置いている。

2 [学部と大学院]

平成27年度現在は、文学部、教育学部、法学部、理学部、医学部、薬学部及び工学部の7学部、並びに4研究科・1研究部・3教育部の大学院を設置している。学生・大学院生等は10,173人、教職員数は約2,643人である。（平成27年5月1日現在）

3 [学内共同施設]

附置研究所として、発生医学研究所、パルスパワー科学研究所を有し、学内共同教育研究施設として、総合情報統括センター、沿岸域環境科学教育研究センター、生命資源研究・支援センター、エイズ学研究センター、政策創造研究教育センター等の特色ある施設を有する。

4 [大学の理念]

本学は、総合大学として、知の創造、継承、発展に努め、知的、道徳的及び応用的能力を備えた人材を育成することにより、地域と国際社会に貢献する。

5 [教育目標]

大学の理念に基づき、学部では、現代社会を深く理解できる教養、国際的対話力、情報化への対応能力及び主体的な課題探求能力を備え、幅広い専門性を有する人材を育成する。大学院では、人間と自然への深い洞察に基づく総合的判断力と国際的に通用する専門知識・技能とを身につけた高度専門職業人と研究者を育成する。また、社会に開かれた大学として、生涯を通じた学習の場を積極的に提供する。

6 [研究目標]

研究面では、高度な学術研究の中核としての機能を高め、最先端の創造的な学術研究を積極的に推進するとともに、人類の豊かな文化遺産の継承・発展に努める。総合大学の特徴を活かして、「人の命」、「人と自然」、「人と社会」の諸科学を総合的に深化させ、世界水準の研究を推進することにより、人間と環境の共生及び社会の持続可能な発展に寄与する。

7 [社会連携の目標]

教育研究に加えて、地方中核都市に位置する国立大学として、地域との連携を強め、地域における研究中核的機能及び指導的人材の養成機能を果たす。

8 [運営の基本方針]

熊本大学アクションプラン 2010 において、次の「学長の4つの約束」を掲げ、地域に根ざしてグローバルに展開する未来志向の研究拠点大学を目指す。

1 教育力の強化

学生が豊かな人生を送るための「知力」を獲得できる教育を強化します。

2 研究力のアップ

世界の先端的研究を推進し、特色ある基礎的研究を強化します。

3 社会貢献の推進

社会貢献のために、地域と連携してさまざまな取組みを進めます。

4 国際化の推進

留学生 500 人計画など、大学の国際化に向けての国際交流を強化します。

9 [高度情報化キャンパス]

「熊本大学情報環構想 2010」に基づき、高速 LAN KUIVC V2 の敷設や、無線 LAN 拡大等の基盤整備を行い、強固な情報セキュリティによる安全・快適な情報活用環境整備を行った上で、卒業生、保護者、共同研究者、地域社会等を熊本大学 ID 利用者として加え、生涯利用継続可能としている。

10 [学生の募集・進路状況]

本学の学部入学者は、県内 29%、県内以外の九州内 63%、九州外 8% である。一方、就職先は県内 32%、県内以外の九州内 41%、九州外 27% である。学部卒業生の進学率は 32% であり、学部卒業生の平成 27 年度の就職率は 95% である。大学院修士課程の修了者の就職率は 97% であり、博士課程の修了者は、92% となっている。

11 [特化した世界水準の研究]

世界トップレベルの先端的・先導的研究を推進するため、次の3つの国際先端研究拠点と国際先端医学研究機構を設置し、重点的に支援を行うことで、世界最高水準の研究と人材育成を幅広く実施し、学術面並びに社会面で卓越し、かつ優れた研究業績を創出している。

1 幹細胞を用いた臓器再建と次世代医療・創薬を目指す研究教育拠点

2 エイズ制圧を目指した治療予防開発国際研究教育拠点

3 パルスパワー科学の深化と応用

12 [活発な国際交流]

国際共同研究を推進するため、次の国際共同研究拠点を設置して、国際研究ネットワークを構築し、国際的な学術交流・人的交流を活発化することで、本学の活力を生み出すとともに、国際的な評価を高めている。

- 1 生命科学系国際共同研究拠点
- 2 自然科学系国際共同研究拠点
- 3 人文社会科学系国際共同研究拠点

13 [地域への貢献]

地域社会との積極的な連携を通して双方向の活動を推進し、地域再生の核となる大学づくりのため、地域社会との連携に係る基本方針を次のとおり定め、地域社会からの要請を的確に把握し、研究成果の公開、人的交流、諸施設の開放等を通して、産業創成、地域経済振興、教育及び文化の向上、医療・福祉の増進等に積極的に貢献するとともに、教育面における社会サービスの充実を図り、地域に開かれた大学として、社会の貢献に寄与している。

- 1 地域社会との組織的な連携の強化
自治体、団体、企業等と連携することにより、本学とこれらの機関が有する資源を活用し、地域社会の発展に貢献する。
- 2 地域社会の課題解決への貢献
地域社会が抱える課題を解決するため、自治体等の審議会・委員会への参画、課題解決に関する調査研究及びその成果に基づく政策提言、本学の教育研究成果の還元を行うことにより、地域の活性化を推進する。
- 3 大学の生涯学習機能の強化
地域の教育及び文化の向上・発展や多様な分野における人材育成などに寄与するため、本学の生涯学習機能を強化し、地域社会の発展に貢献する。
- 4 産学連携・産業振興への貢献
地域再生・地域活性化のために、自治体や企業等と連携し、イノベーションの創出及び社会の変革を担い、グローバルに活躍できる人材の育成等を推進する。

[個性の伸長に向けた取組み]

(計画1-1-1-1)、(計画1-1-1-2)、(計画1-1-2-1)、
 (計画1-1-2-2)、(計画1-1-3-1)、(計画1-1-3-2)、
 (計画1-1-3-3)、(計画1-1-3-4)、(計画1-1-4-2)、
 (計画1-1-6-1)、(計画1-1-6-2)、(計画1-1-6-3)、
 (計画1-2-1-2)、(計画1-2-2-1)、(計画1-2-2-2)、
 (計画1-2-2-3)、(計画1-2-2-4)、(計画1-2-2-5)、
 (計画1-2-3-1)、(計画1-2-3-2)、(計画1-3-1-1)、
 (計画1-3-1-2)、(計画1-3-1-3)、(計画1-3-1-4)、
 (計画1-3-2-1)、(計画1-3-2-2)、(計画2-1-1-1)、
 (計画2-1-1-2)、(計画2-1-1-3)、(計画2-1-1-4)、
 (計画2-1-2-1)、(計画2-1-2-2)、(計画2-2-1-1)、
 (計画2-2-1-2)、(計画2-2-2-1)、(計画2-2-2-2)、
 (計画2-2-2-3)、(計画2-2-2-4)、(計画2-2-2-5)、
 (計画3-1-1-1)、(計画3-2-1-1)、(計画3-2-1-2)、
 (計画3-2-2-1)、(計画3-2-2-2)、(計画3-2-2-3)、

(計画 3-3-1-1)、(計画 3-3-1-2)、(計画 3-3-2-1)、
(計画 3-3-2-2)、(計画 3-3-3-1)、(計画 3-3-3-2)

[東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組み等]

①モニタリングロボットによる復旧活動

世界最先端の性能を有する音響解析装置及びモニタリングロボットを製作して、次の活動を積極的に行った。

(平成 23 年度)

・宮城県気仙沼湾の海底がれき調査を実施し、がれき除去の大幅な効率化に貢献した。

(平成 24 年度)

・詳細な海底調査の結果、宮城県の湾内に沈む漁船 1 隻と重油タンク 2 基の引上げに貢献した。

・海底に残る重油やがれきの除去に向け、同湾の詳細な海底地図を作成した。

(平成 25 年度)

・海域の地形・底質・瓦礫を 4 回調査して、高精度 3D 地形図と底質・流失物の分布図を作成し、宮城県に無償提供した。

②被災地沿岸における化学汚染と経年変動のモニタリング調査

・平成 23 年 6 月から震災被災地沿岸の 30 地点以上から二枚貝と底質を採取・分析し、高濃度の多環芳香族炭化水素類 (PAHs) の推移について、長期的なモニタリングを行った。

・平成 26 年 5 月に行った調査から分析した結果、PAHs 濃度の経年変化傾向から各物質の環境半減期を算出して、汚染の未来予測を行った。

③放射性セシウムで汚染されたコンクリート瓦礫の処理方法について

予め 200~400℃に加熱した汚染コンクリート瓦礫を、網電極上に載置し、水槽中で電気パルスパワーにより破碎処理して、網電極で処理残渣を分離することで汚染物質の減容ができる安全な処理方法を考案した。これによって再生骨材を回収することができた。

④小型ブロックで漁礁を復活させる取組みについて

平成 25 年度末に南三陸町に設置した人工漁礁について、実用化に向けて設置後 2 年が経過する 12 月に現地観察を行ったところ、設置したブロックに海藻とカキ (直径が 8 cm 程度) が密集しており、期待どおりの成果であった。

⑤被災者の子育てネットワーク形成等について

福島第一原子力発電所がある大熊町民が避難する会津若松の仮設住宅の方と熊本県内に避難された方を対象として、平成 24~25 年度にかけて、インタビュー調査を実施して、地方での避難先での子育て支援について、検証した結果、子育てネットワーク形成には、ハブとなるコーディネーターの存在が必要であり、地方の支援だけでなく、情報を駆使して地域に入り込んでいくことが特に重要であるとの結論を得た。

⑥紛争解決学を活かした被災者の分断解決や対話等の支援について

原子力発電所事故の被災者の間で、異なったりリスク認知、補償状況、政治的な立場であることを巡って、住民同士の分断やあつれきが起きた。これらの問題へのアプロ

一チ事例を収集し、国連大学と連携して、ジョイントワークショップを平成 27 年 5 月に開催して、被災地の対話リーダーが発表する場を設け、アプローチ事例の有効性を検討した。

⑦医療支援について

- ・医療支援として、災害医療支援チーム計 47 名（平成 23 年 3 月 18 日～4 月 13 日）、精神科医計 10 名（平成 23 年 3 月 21 日～5 月 21 日）、産婦人科医 2 名（平成 23 年 9 月 10 日～17 日）、内科医計 4 名（平成 23 年 9 月 19 日～3 月 3 日）等を、宮城県石巻市・南三陸町などの被災地へ派遣した。
- ・平成 28 年 2 月に日本産科婦人科学会からの要請により、太田総合病院附属太田西ノ内病院（福島県郡山市）に産科・婦人科医を 1 名派遣した。
- ・平成 28 年 3 月には全国医学部長病院長会議被災地医療支援委員会からの要請により、いわてこどもケアセンター（岩手県紫波郡矢巾町）に小児科医を 1 名派遣して、児童思春期外来診療業務の支援を行った。

評価結果

《概要》

第2期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、熊本大学の中期目標（大項目、中項目、小項目）の達成状況の概要は、次のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）の判定の分布			
		非常に優れている	良好	おおむね良好	不十分
(Ⅰ) 教育に関する目標	おおむね良好				
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標	おおむね良好		1	5	
② 教育の実施体制等に関する目標	おおむね良好			3	
③ 学生への支援に関する目標	おおむね良好			2	
(Ⅱ) 研究に関する目標	おおむね良好				
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標	おおむね良好			2	
② 研究実施体制等に関する目標	おおむね良好		1	1	
(Ⅲ) その他の目標	おおむね良好				
① 地域を志向した教育・研究に関する目標	良好		1		
② 社会との連携や社会貢献に関する目標	おおむね良好			2	
③ 国際化に関する目標	おおむね良好			3	

＜主な特記すべき点＞

個性の伸長に向けた取組

- 社会文化科学研究科交渉紛争解決・組織経営専門職コースでは、福島県いわき市、熊本県水俣市と連携した紛争解決学講座の出前授業の開設等を通して、大学院生が直接現場で体験できる実践的な研究指導体制を構築している。当該コースの修了生の主な進路・就職先は、紛争解決学分野に関連し国際協力機構（JICA）海外青年協力隊事業、ラオス外務省等となっている。（中期計画 1-1-3-1）
- 薬学教育部では、平成 24 年度からグローバルリーダーを目指す優秀な学生を対象とした「グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラム HIGO」を実施しており、生命科学の講義のみならず社会文化科学に関する演習や国内外の専門家を招へいして行うセミナー等からなる学際的な教育課程を構築している。当該プログラム受講生の学会参加数は、平成 25 年度の 3 件から平成 27 年度の 37 件へ増加しており、平成 27 年度には参加学会数の約 4 割に当たる 15 件の学会賞を受賞している。（中期計画 1-1-3-4）
- 細川家に伝来する永青文庫等の古文書研究を実施している。永青文庫約 6 万点、阿蘇家文書約 2 千点の総目録の作成や研究成果の発信に取り組んでおり、第 2 期中期目標期間（平成 22 年度から平成 27 年度）における著書、論文数は 139 件となっている。また、当該研究を通じ、永青文庫 266 点の資料が重要文化財として指定を受けているほか、平成 22 年度にボルドー第三大学（フランス）において、永青文庫資料に関する講演を実施したことにより、当該大学からの学生受入につながっている。（中期計画 2-1-1-3）
- 平成 22 年度に大学内の公募により認定された 18 の学内研究拠点の事後評価を行った上で、平成 25 年度から新たに国際先端研究拠点として 20 拠点を認定している。これらの拠点に対して、第 2 期中期目標期間に約 6 億 1,000 万円の支援を行った結果、科学研究費助成事業では大学全体の 44.0%に当たる約 45 億 5,900 万円の採択につながっている。また、当該拠点に所属する研究者の論文について、被引用数が上位 10%に入る論文の数は大学全体の約 6 割を占めており、大学の研究力向上に寄与している。
（中期計画 2-2-2-1）
- 発生医学研究所では、平成 24 年度に共同利用・共同研究拠点事業を推進するためにリエゾンラボ研究推進施設を設置している。共同利用機器の利用拡大、学内外の共同研究の促進及び先端機器を活用した技術支援に取り組んだことにより、第 2 期中期目標期間における共同研究活動件数は合計 117 件となっている。また、共同研究等の成果として、iPS 細胞からの腎臓細胞の作製に成功している。（中期計画 2-2-2-2）
- 国際戦略コーディネーターを雇用し、研究者間の共同研究協定締結の支援等を実施するとともに、平成 26 年度には 13 名のリサーチ・アドミニストレーター（URA）、3 名の URA 研究員を配置した URA 推進室を設置し、研究者への支援体制を充実している。

これらの取組により、国際共著論文数は平成 21 年度の 250 件から平成 27 年度の 321 件へ増加している。（中期計画 2-2-2-3）

- 平成 23 年度から実施している、満 45 歳以下の若手教員を対象とした若手国際共同研究スタートアップ事業により、54 件に対して長期・短期の経費支援を行い、日本学術振興会（JSPS）の国際交流事業及び頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラムの採択につながっている。また、インドネシアにおけるスラバヤ工科大学情報技術高等人材育成プロジェクトの実施、海外オフィスの設置等により、第 2 期中期目標期間にインドネシアからの留学生 250 名を受け入れ、インドネシアにおける協定校数は、平成 22 年度の 3 校から平成 27 年度の 9 校へ増加している。（中期計画 3-3-2-2）

<復旧・復興への貢献・支援活動等に関係した顕著な取組>

- モニタリングロボットによる復旧活動
世界最先端の性能を有する音響解析装置及びモニタリングロボットを製作して、次の活動を積極的に行った。

（平成 23 年度）

宮城県気仙沼湾の海底がれき調査を実施し、がれき除去の大幅な効率化に貢献した。

このほかの取組は、法人の特徴「東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等」欄にあるとおりである。

《本文》

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に関する中期目標(3項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(6項目)のうち、1項目が「良好」、5項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。なお、「良好」と判定した1項目は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された1計画を含む。

<特記すべき点>

(優れた点)

○自治体と連携した実践的教育研究指導の実施

中期目標(小項目)「博士課程(博士後期課程)においては、学術的及び社会的要請にこたえて、大学院教育を一層実質化して国際的通用性を高め、高い専門性と豊かな創造性を有する研究者及び高度専門職業人を養成する。」について、社会文化科学研究科交渉紛争解決・組織経営専門職コースでは、福島県いわき市、熊本県水俣市と連携した紛争解決学講座の出前授業の開設等を通して、大学院生が直接現場で体験できる実践的な研究指導体制を構築している。当該コースの修了生の主な進路・就職先は、紛争解決学分野に関連し国際協力機構(JICA)海外青年協力隊事業、ラオス外務省等となっている。(中期計画 1-1-3-1)

○学際的な教育課程の構築

中期目標(小項目)「博士課程(博士後期課程)においては、学術的及び社会的要請にこたえて、大学院教育を一層実質化して国際的通用性を高め、高い専門性と豊かな創造性を有する研究者及び高度専門職業人を養成する。」について、薬学教育部では、平成24年度からグローバルリーダーを目指す優秀な学生を対象

とした「グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラム HIGO」を実施しており、生命科学の講義のみならず社会文化科学に関する演習や国内外の専門家を招へいして行うセミナー等からなる学際的な教育課程を構築している。当該プログラム受講生の学会参加数は、平成 25 年度の 3 件から平成 27 年度の 37 件へ増加しており、平成 27 年度には参加学会数の約 4 割に当たる 15 件の学会賞を受賞している。（中期計画 1-1-3-4）

○専門分野以外の教員指導等の実施

中期目標（小項目）「博士課程（博士後期課程）においては、学術的及び社会的要請にこたえて、大学院教育を一層実質化して国際的通用性を高め、高い専門性と豊かな創造性を有する研究者及び高度専門職業人を養成する。」について、保健学教育部博士後期課程に看護系教育コース及び医療技術科学系教育コースを設置し、それぞれの専門分野に加え、他コースの教員による指導や英語論文の作成指導を実施することにより、英語論文発表数は、平成 22 年度の 3 件から平成 27 年度の 11 件へ増加している。また、平成 25 年度から平成 27 年度までの修了生の進路・就職先は、大学教員・研究員 5 名、病院技術者 3 名となっている。

（中期計画 1-1-3-5）

○文学部における学生の主体的な学修の促進

文学部において、平成 25 年度から水俣地域を対象とした「地域インターンシップ」、平成 26 年度から水俣、芦北地域の地域づくりや商品開発などに取り組むアクティブ・ラーニング型の授業等を実施しており、学生の主体的な学修を促している。（現況分析結果）

（特色ある点）

○大学院教養科目の全学的展開

中期目標（小項目）「修士課程（博士前期課程）においては、学士課程教育との一貫性を保ちつつ、社会的及び学術的要請にこたえて、大学院教育を一層実質化して国際的通用性を高め、高度で幅広い専門知識・技能及び課題解決能力を有する高度専門職業人を養成する。」について、自然科学研究科において実施している大学院教養科目を大学全体に展開し、平成 22 年度から平成 26 年度までに 62 科目の大学院教養教育科目を開講している。平成 26 年度からは大学院教養教育プログラムとして実施しており、平成 27 年度には国際的に通用する人材を育成するための英語による「イングリッシュ・アカデミック・ライティング」等、17 科目を開講している。（中期計画 1-1-2-1）

○国際通用性の高い教育の推進

中期目標（小項目）「博士課程（博士後期課程）においては、学術的及び社会的要請にこたえて、大学院教育を一層実質化して国際的通用性を高め、高い専門性と豊かな創造性を有する研究者及び高度専門職業人を養成する。」について、感染領域や造血領域等の卓越した先導的研究を行う国際先端医学研究機構において、公用語として英語が用いられており、オープンラボでの分野融合による国際共同研究活動に大学院生を参画させることで、国際通用性を有する研究者としての能力育成に取り組んでいる。（中期計画 1-1-3-3）

（２）教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（３項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（特色ある点）

○国際共同教育拠点プログラムの実施

中期目標（小項目）「大学院においては、国際的に通用する質の高い教育を実施するため、柔軟で効果的な大学院教育実施体制を強化する。また、法曹養成研究科においては、少人数教育の特色を生かし、法理論と実務を架橋する教育体制を強化する。」について、平成 22 年度に科学技術振興機構（JST）の戦略的環境リーダー育成拠点形成事業に「地下水環境リーダー育成国際共同教育拠点プログラム」が採択され、水の循環システム全体を把握、学習するための教育課程により、修了生を地下水環境リーダーとして認定している。第 2 期中期目標期間（平成 22 年度から平成 27 年度）に認定を受けた 37 名のうち、留学生 27 名は母国の大学教員、研究員として就職するなど、各国の水環境改善に資する人材の養成に取り組んでいる。（中期計画 1-2-2-4）

(3) 学生への支援に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○学生自主企画支援事業の実施

中期目標(小項目)「自立した社会人としての資質・能力を高めるため、自律的学習を支援するとともに、学生の経済的・精神的支援や様々な自主的活動の支援を行う。」について、自主性、創造性、独創性を育む目的で学生自主企画支援事業「きらめきユースプロジェクト」を実施し、第2期中期目標期間に104件の取組を支援している。当該プロジェクトから生まれた音声点字学習器を特別支援学校等に寄贈する活動を行っており、平成27年度までに22機関へ寄贈している。(中期計画1-3-1-3)

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に関する中期目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。なお、「おおむね良好」と判定した2項目のうち1項目は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された1計画を含む。

<特記すべき点>

(優れた点)

○古文書研究の推進

中期目標(小項目)「「生命科学」、「自然科学」、「人文社会科学」、「学際・複合・新領域」の質の高い研究を展開し、その中で国際的な研究能力を有する人材を育成する。」について、細川家に伝来する永青文庫等の古文書研究を実施している。永青文庫約6万点、阿蘇家文書約2千点の総目録の作成や研究成果の発信に取り組んでおり、第2期中期目標期間における著書、論文数は139件となっている。また、当該研究を通じ、永青文庫266点の資料が重要文化財として指定を受けているほか、平成22年度にボルドー第三大学(フランス)において、永青文庫資料に関する講演を実施したことにより、当該大学からの学生受入につながっている。(中期計画2-1-1-3)

○文学部における研究成果の発信

文学部において、永青文庫研究センターの研究活動をまとめた「熊本大学寄託永青文庫資料総目録」全4巻を平成27年度に出版している。(現況分析結果)

○文学部における研究の推進

文学部において、卓越した研究業績として、考古学の「縄文時代のコクゾウムシ圧痕、及び日本・アジア諸国における植物利用史の研究」があり、特徴的な研究業績として、中国文学の「豊子愷と漱石、ハーンの比較研究」、アジア・アフリカ史の「明初里甲制体制の形成過程の研究」がある。（現況分析結果）

（特色ある点）

○国際的に卓越した先導的研究の推進

中期目標（小項目）「「生命科学」、「自然科学」、「人文社会科学」、「学際・複合・新領域」の質の高い研究を展開し、その中で国際的な研究能力を有する人材を育成する。」について、平成 27 年度に国際先端医学研究機構を設置し、国際公募による外国人教員、テニユアトラック教員の採用や年俸制・混合給与制の導入等、学長主導によるガバナンス改革に取り組むとともに、オックスフォード大学（英国）等から研究者を招へいして、感染領域や造血領域等において国際的に卓越した先導的研究を行っている。（中期計画 2-1-1-1）

（2）研究実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「研究実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2項目）のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○国際先端研究拠点の認定

中期目標（小項目）「質の高い研究及び基盤的研究を推進するため、研究環境を整備・強化する。」について、平成 22 年度に大学内の公募により認定された 18 の学内研究拠点の事後評価を行った上で、平成 25 年度から新たに国際先端研究拠点として 20 拠点を認定している。これらの拠点に対して、第 2 期中期目標期間に約 6 億 1,000 万円の支援を行った結果、科学研究費助成事業では大学全体の 44.0%に当たる約 45 億 5,900 万円の採択につながっている。また、当該拠点に所属する研究者の論文について、被引用数が上位 10%に入る論文の数は大学全体の約 6 割を占めており、大学の研究力向上に寄与している。（中期計画 2-2-2-1）

○共同利用・共同研究の推進体制の構築

中期目標（小項目）「質の高い研究及び基盤的研究を推進するため、研究環境を整備・強化する。」について、発生医学研究所では、平成 24 年度に共同利用・共同研究拠点事業を推進するためにリエゾンラボ研究推進施設を設置している。共同利用機器の利用拡大、学内外の共同研究の促進及び先端機器を活用した技術支援に取り組んだことにより、第 2 期中期目標期間における共同研究活動件数は合計 117 件となっている。また、共同研究等の成果として、iPS 細胞からの腎臓細胞の作製に成功している。（中期計画 2-2-2-2）

○研究支援体制の充実

中期目標（小項目）「質の高い研究及び基盤的研究を推進するため、研究環境を整備・強化する。」について、国際戦略コーディネーターを雇用し、研究者間の共同研究協定締結の支援等を実施するとともに、平成 26 年度には 13 名のリサーチ・アドミニストレーター（URA）、3 名の URA 研究員を配置した URA 推進室を設置し、研究者への支援体制を充実している。これらの取組により、国際共著論文数は平成 21 年度の 250 件から平成 27 年度の 321 件へ増加している。

（中期計画 2-2-2-3）

(Ⅲ) その他の目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「その他の目標」に関する中期目標(3項目)のうち、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 地域を志向した教育・研究に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「地域を志向した教育・研究に関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○地域志向型教育研究の推進

中期目標(小項目)「地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究を推進する。」について、平成26年度に文部科学省の地(知)の拠点整備事業(COC)に「活力ある地域社会を共に創る火の国人材育成事業」が採択され、地域志向の教育、研究及び地域貢献に係る事業として、地域志向型教育研究を大学内で公募し、地域課題(ニーズ)と大学資源(シーズ)がマッチングした課題として49件を採択し支援している。天草市では、学生、地元高等学校の生徒及び地域住民が文化的景観を活用したフットパスコースの提案やコースマップを作成するなど、過疎地として人口減少が続く集落を学生教育の場として活用している。

(中期計画 3-1-1-1)

(2) 社会との連携や社会貢献に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○地域人材の育成への取組

中期目標(小項目)「地域振興の中核大学として、熊本大学の資源と知的活動を活かし、また地域の諸機関と連携し、地域に貢献する。」について、政策創造研究教育センターにおいて、熊本県自治体職員研究協議会や熊本市、天草市及び菊池市と共同で16件の自治体職員研修を実施している。また、地域づくり交流会、若手公務員・学生による政策コンペ事業等を開催しているほか、実践的な地域マネジメントに関するテキストを出版し、地域人材の育成に取り組んでいる。

(中期計画 3-2-2-1)

(3) 国際化に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「国際化に関する目標」の下に定められている具体的な目標(3項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○若手教員の国際共同研究の推進

中期目標(小項目)「本学の特色ある分野を中心として、諸外国の研究機関との研究連携を強化することにより、研究の国際的な卓越性を高める。」について、平成23年度から実施している、満45歳以下の若手教員を対象とした若手国際共同研究スタートアップ事業により、54件に対して長期・短期の経費支援を行い、日本学術振興会(JSPS)の国際交流事業及び頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラムの採択につながっている。また、インドネシアにおけるスラバヤ工科大学情報技術高等人材育成プロジェクトの実施、海外オフィスの設置等により、第2期中期目標期間にインドネシアからの留学生250名を

受け入れ、インドネシアにおける協定校数は、平成 22 年度の 3 校から平成 27 年度の 9 校へ増加している。（中期計画 3-3-2-2）

《判定結果一覧表》

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
(I) 教育に関する目標		おおむね良好	
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標		おおむね良好	
学士課程においては、学習成果に基づく体系的な学士課程教育プログラムを構築して、創造的知性と実践力を兼ね備えた学士力を身に付けさせ、社会に貢献できる人材を養成する。		おおむね良好	
1-1-1-1	創造的知性と実践力を兼ね備えた学士力を身に付けさせるため、学習成果に基づく体系的な学士課程教育プログラムを平成23年度までに構築し、実施する。	おおむね良好	
1-1-1-2	社会的要請の強い分野において、新たに秋季入学の教育プログラムを導入する。	おおむね良好	
修士課程（博士前期課程）においては、学士課程教育との一貫性を保ちつつ、社会的及び学術的要請にこたえて、大学院教育を一層実質化して国際的通用性を高め、高度で幅広い専門知識・技能及び課題解決能力を有する高度専門職業人を養成する。		おおむね良好	
1-1-2-1	高度で幅広い専門知識・技能及び課題解決能力を身に付けた高度専門職業人を養成するため、明確な人材養成目的に沿って、体系的な教育課程を備えた国際的通用性の高い教育プログラムを整備する。	良好	特色ある点
1-1-2-2	海外の交流協定校等との連携、国費外国人留学生制度の活用等により、国際的な大学院教育プログラムを充実する。	おおむね良好	
博士課程（博士後期課程）においては、学術的及び社会的要請にこたえて、大学院教育を一層実質化して国際的通用性を高め、高い専門性と豊かな創造性を有する研究者及び高度専門職業人を養成する。		良好	
1-1-3-1	社会文化科学研究科：人間・社会科学、文化学及び教授システム学の分野において、高度な専門知識及び創造的課題解決能力を身に付けた研究者及び高度専門職業人を養成するため、コースワーク及び研究指導を充実する。	良好	優れた点
1-1-3-2	自然科学研究科：理学、工学及びその融合分野（複合新領域科学等）において、幅広い分野にわたる創造性豊かな実践的応用能力及び総合的・国際的視野を持つ研究能力を身に付けた研究者及び高度専門職業人を養成するため、コースワーク及び研究指導を充実する。	おおむね良好	
○ 1-1-3-3	医学教育部：医学及び生命科学の分野において、高度な知識と研究能力、生命と医療に関する倫理観及び先進的医療を構築・実践できる洞察力と技量を身に付けた研究者及び高度専門職業人を養成するため、コースワーク及び研究指導を充実する。特に、「国際先端医学研究機構」における完全英語公用語化やオープンラボでの国際共同研究活動に大学院生を参画させ、本機構の研究への取組を大学院教育へ波及させるなど、国際通用性の高い教育を推進する。	おおむね良好	特色ある点

(注) 計画番号の前に○印がある中期計画は、戦略性が高く意欲的な目標・計画を示す。

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
1-1-3-4	薬学教育部：創薬・生命科学・環境科学分野において、薬学に関する高度な知識と研究能力、生命と環境に関する倫理観及び先進的創薬を実践できる洞察力と技量を身に付けた研究者及び高度専門職業人を養成するため、コースワーク及び研究指導を充実する。	良好	優れた点
1-1-3-5	保健学教育部：保健学分野において、看護学、放射線技術科学及び検査技術科学に関する高度な知識と研究能力、生命と医療に関する倫理観及び先進的保健を実践できる洞察力と技量を身に付けた研究者及び高度専門職業人を養成するため、コースワーク及び研究指導を充実する。	良好	優れた点
法曹養成研究科においては、社会的要請のある特定分野について、理論と実務を架橋する教育課程を提供し、高度で専門的な職業能力を有する人材を養成する。		おおむね良好	
1-1-4-1	法理論と実務を架橋する法曹養成の教育目標に基づき、社会における基礎的かつ普遍的なニーズ及び地域の法的ニーズに的確に対応できる能力を身に付けさせるため、段階的・系統的な教育を実施する。	おおむね良好	
1-1-4-2	地域社会、とりわけ熊本県を中心とした九州圏内の司法ニーズにこたえることのできる法曹を養成することにより、九州圏内地域に定着し、地域のために活動する質の高い法曹の量的増加を目指す。	おおむね良好	
アドミッションポリシーに沿った入学者を確保し、課程の目的と学位授与の方針に則し、明確な評価基準に基づき学習成果を検証することによって、学士課程教育及び大学院教育の改善と質の向上を行う。		おおむね良好	
1-1-5-1	学部等の募集単位ごとに、課程の目的により良く適合するようにアドミッションポリシーを一層明確化する。	おおむね良好	
1-1-5-2	アドミッションポリシーに沿った優秀な学生を確保するため、入試の在り方を点検して必要な改善を行うとともに、広報を強化する。	おおむね良好	
1-1-5-3	課程の目的に則した学位授与の方針を具体的に定め、明確な評価基準に基づき学習成果を的確に把握・検証することによって、学士課程及び大学院の教育プログラムの改善を継続的に行う。	おおむね良好	
ICT（情報コミュニケーション技術）の活用を含め、多様な授業形態の普及・促進、学生の意見を踏まえたFD活動による授業方法等の改善及び厳格で一貫した成績評価を組織的に推進する。		おおむね良好	
1-1-6-1	本学が構築した高度な高度情報化キャンパス環境を活用したeラーニングを含め、多様な授業形態・方法の普及を促進する。	おおむね良好	
1-1-6-2	授業方法等の改善を推進するため、学生による授業改善のためのアンケートの方法を見直すとともに、アンケート結果を踏まえた教員のFD活動を充実する。	おおむね良好	
1-1-6-3	厳格で一貫した成績評価の徹底を図るため、シラバスにおける授業目標及びそれに基づく評価方法・基準の一層の明確化を推進する。	良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
② 教育の実施体制等に関する目標		おおむね良好	
学士課程においては、創造的知性と実践力を兼ね備えた学士力を養成するため、学習成果に基づく体系的な学士課程教育プログラムの効果的・効率的実施に必要な体制を整備する。		おおむね良好	
1-2-1-1	学習成果に基づく体系的な教育を実施するため、学部が主体的に責任を持つ新たな教養教育の構築を含め、効果的・効率的な学士課程教育の全学的実施体制を平成23年度までに整備する。	おおむね良好	
1-2-1-2	学士課程教育プログラムを実施するために必要な教職員を効果的・効率的に配置する。	おおむね良好	
大学院においては、国際的に通用する質の高い教育を実施するため、柔軟で効果的な大学院教育実施体制を強化する。また、法曹養成研究科においては、少人数教育の特色を生かし、法理論と実務を架橋する教育体制を強化する。		おおむね良好	
1-2-2-1	国際的に通用する大学院教育実施体制を強化するため、教育プログラムの成果を検証し、その結果を基に改善する質保証システムを充実する。	おおむね良好	
1-2-2-2	社会的・学術的要請にこたえて、国内外の大学や研究機関、産業界や行政との連携等を推進する。	おおむね良好	
1-2-2-3	社会文化科学研究科：教育組織を見直すとともに、柔軟で効果的な教育実施体制を構築する。	おおむね良好	
1-2-2-4	自然科学研究科：社会的要請を踏まえて教育組織を見直すとともに、柔軟で効果的な教育実施体制を構築する。	良好	特色ある点
1-2-2-5	法曹養成研究科：多様な授業科目を提供するとともに、少人数教育の特色を生かし、他大学の法科大学院との連携・協力体制を強化する。	おおむね良好	
学内共同教育研究施設を活用し、eラーニングやICT活用教育を含め全学的な教育推進体制を整備・強化する。		おおむね良好	
1-2-3-1	eラーニングやICT活用教育を含む教育・学習に対する全学的な支援・推進体制を整備・強化するため、学内共同教育研究施設の機能的再編を計画的に推進する。	おおむね良好	
1-2-3-2	ユビキタスな情報社会における学生の自主的学習を支援するため、総合情報環境構想に基づき、図書館の高度情報化を推進する。	おおむね良好	
③ 学生への支援に関する目標		おおむね良好	
自立した社会人としての資質・能力を高めるため、自律的学習を支援するとともに、学生の経済的・精神的支援や様々な自主的活動の支援を行う。		おおむね良好	
1-3-1-1	学生の自主的な学習を促進するため、学習相談・助言の支援体制を強化するとともに、自習スペース等の自律的学習環境を全学的に整備する。また、社会人学生のニーズに応じた学習支援策を充実する。	おおむね良好	
1-3-1-2	学生が充実した生活を送れるように、各種奨学金の応募支援等の経済支援面の取組を強化するとともに、保健センターとの緊密な連携の下に、学生相談室が蓄積したノウハウとデータを生かして、メンタルケア等の総合相談窓口機能を一層向上させる。	おおむね良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
1-3-1-3	学生の社会性を高めるため、学生自主企画支援事業「きらめきユースプロジェクト」の拡充を始め、学生が主体的に取り組む社会貢献・サークル活動等の学内外での様々な活動を継続的に支援する。	良好	特色ある点
1-3-1-4	学生のキャリア形成・就職活動を支援するため、卒業生の協力も得ながら、キャリア支援課と学部・研究科等が連携する全学的キャリア支援体制を強化する。	おおむね良好	
学生の国際的な視野を広げるため、海外における学習・研究活動の支援を拡充するとともに、留学生が安心して学習・研究に専念できる生活環境を整備する。		おおむね良好	
1-3-2-1	学生の海外研修や調査研究、国際会議やシンポジウムへの参加を促進するために、情報提供及び助成等の支援を展開する。	おおむね良好	
1-3-2-2	外国人留学生に対して入学から卒業・就職に至るまで多様なニーズに即応できるようなサービス体制を整備し、より快適なキャンパス生活及び住環境を提供できるよう支援を強化する。	おおむね良好	
(Ⅱ) 研究に関する目標		おおむね良好	
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標		おおむね良好	
「生命科学」、「自然科学」、「人文社会科学」、「学際・複合・新領域」の質の高い研究を展開し、その中で国際的な研究能力を有する人材を育成する。		おおむね良好	
○ 2-1-1-1	生命科学において、グローバルCOE「細胞系譜制御研究の国際的人材育成ユニット」プログラム及び「エイズ制圧を目指した国際教育研究拠点の形成」プログラムの着実な遂行等を通して質の高い先端研究を組織的・機動的に展開し、国際的な研究能力を有する人材を育成するとともに、グローバルな共同研究ネットワークの拡充・発展を通して国内外の共同研究を先導する。更に、研究組織を戦略的に統括する国際先端医学研究機構を平成27年度に設置し、オックスフォード大学等から世界一線級の研究者を招へいするとともに、国際公募を通して優秀な先導的若手研究者の発掘・育成を行い、感染領域や造血領域等で国際的に卓越した先導的研究に取り組む。	おおむね良好	特色ある点
2-1-1-2	自然科学において、グローバルCOE「衝撃エネルギー工学グローバル先導拠点」プログラムの着実な遂行等を通して質の高い先端研究を組織的・機動的に展開し、国際的な研究能力を有する人材を育成するとともに、グローバルな共同研究ネットワークの拡充・発展を通して国内外の共同研究を先導する。	おおむね良好	
2-1-1-3	人文社会科学において、拠点形成研究「永青文庫」資料等の世界的資源化に基づく日本型社会研究」等を通して質の高い研究を展開し、成果を迅速に公開するとともに、高度な研究能力を有する人材を育成する。また、共同研究ネットワークの構築・拡充・発展を通して広く国内外での共同研究を推進する。	良好	優れた点

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
2-1-1-4	学際・複合・新領域において、拠点形成研究「地域水循環機構に基づく持続的水資源利用のフロンティア研究」等を通して質の高い先導的研究を積極的・機動的に展開し、国際的な研究能力を有する人材を育成するとともに、共同研究ネットワークの構築・拡充・発展及び国内外での共同研究を推進する。		おおむね良好	
「人の命」、「人と自然」、「人と社会」の科学を全学的に先鋭に営むため、研究者の自由な発想に基づく基盤的研究を推進する。			おおむね良好	
2-1-2-1	「人の命」、「人と自然」、「人と社会」の領域において、基盤的研究を推進するために優れた人材を登用し、共同研究の実施や学術セミナーの開催等を通して次世代人材の育成を強化・推進する。		おおむね良好	
2-1-2-2	「人の命」、「人と自然」、「人と社会」の領域において、基盤的研究を推進し、担うことの出来る人材を発掘・育成するため、研究者の研究成果の教育への還元を推進する。		おおむね良好	
② 研究実施体制等に関する目標			おおむね良好	
質の高い研究及び基盤的研究を推進するため、人材を確保・育成する体制を整備・強化する。			おおむね良好	
2-2-1-1	優れた若手研究者を育成すると共に、国際共同研究拠点等を推進する中核教員の確保のため、大学院先導機構を中心としたデニユア・トラック制度を拡充する。また、イノベーション推進機構を中心とした「異分野融合型イノベーション人材育成プログラム」等の実施並びに各部局等の各種非常勤研究員制度の活用を推進する。		おおむね良好	
2-2-1-2	女性教員の積極的参画を実現するため、熊本大学男女共同参画推進基本計画を推進する。また、女性教員の任用を促進し、中期目標期間中に女性教員の割合を概ね15%に増加させる。		良好	
質の高い研究及び基盤的研究を推進するため、研究環境を整備・強化する。			良好	
2-2-2-1	質の高い研究及び基盤的研究を推進するため、学内で拠点形成研究の公募等を継続的に実施し、新規の基盤的拠点研究を発掘し育成するために研究費を重点配分する。		良好	優れた点
2-2-2-2	「発生医学研究所」の全国共同利用・共同研究拠点事業を推進する。		良好	優れた点
2-2-2-3	既存の学問領域を越えて新たなパラダイムを創出する研究活動を強化すると共に、大学院先導機構に自然科学国際共同研究拠点、生命科学国際共同研究拠点及び人文社会科学国際共同研究拠点を組織する。併せて、各拠点の研究活動等を支援するため、URA推進室、研究サポート推進室等を設置し、国際共同研究等を重点的に推進する。		良好	優れた点
2-2-2-4	「生命資源研究・支援センター」や「総合情報基盤センター」等の学内共同教育研究施設の機能強化・機能分化による研究推進のための技術支援や研究支援体制を強化する。		おおむね良好	
2-2-2-5	「グローバルCOE推進室」等の研究支援部門の一層の拡充など、研究者支援の事務支援体制を整備し、教員等が研究に専念できる環境を整える。		おおむね良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
(Ⅲ) その他の目標		おおむね良好	
① 地域を志向した教育・研究に関する目標		良好	
地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究を推進する。		良好	
3-1-1-1	「地域のための大学」として、地域を志向した教育・研究を推進する。このため、大学の組織改革を行い、全学的な教育カリキュラムの改革に取り組み、学生の地域に関する知識・理解を深め、地域で学び、創造力をもって地域の課題解決に挑戦し、社会に貢献する人材育成を行っていくなど、地域の課題（ニーズ）と大学の資源（シーズ）の効果的なマッチングによる地域の課題解決に向けた取組を進める。	良好	特色ある点
② 社会との連携や社会貢献に関する目標		おおむね良好	
大学の資源と知的活動の成果を利活用して、大学間連携、産学官連携をグローバルに推進し、知識基盤社会の形成・発展、産業の振興等に貢献する。		おおむね良好	
3-2-1-1	科学技術や産業の振興に貢献するため、イノベーション推進機構を中心として、研究成果の有体物の整備管理、知的財産等の活用を推進する。	おおむね良好	
3-2-1-2	国内外の研究及び産業の発展等に貢献するため、その推進のための施策・評価委員会等にも積極的に参画し、社会貢献を果たす。また、国内外の研究機関等とネットワークを形成し、学術研究並びに産学官連携を組織的に進める。	おおむね良好	
地域振興の中核大学として、熊本大学の資源と知的活動を活用し、また地域の諸機関と連携し、地域に貢献する。		おおむね良好	
3-2-2-1	地域振興の中核大学として、地方自治体と共同で、魅力ある地域づくりと地域人材育成を行うため、政策創造研究教育センターの機能を強化する。	良好	特色ある点
3-2-2-2	地域文化の向上、教育の質向上に貢献するため、「高等教育コンソーシアム熊本」の活動を活性化する。	おおむね良好	
3-2-2-3	図書館等を中心とした地域への情報提供と知的・文化的サービスを一層充実させるとともに、公開講座や授業開放等を推進し、地域住民への知の還元を行う。	おおむね良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
③ 国際化に関する目標		おおむね良好	
徹底した「大学改革」と「国際化」を全学的に断行することで国際通用性を高め、ひいては国際競争力を強化するとともに、これまでの実績を基に更に先導的試行に挑戦し、我が国の社会のグローバル化を牽引するための取組を進める。		おおむね良好	
3-3-1-1	スーパーグローバル大学創成支援「地域と世界をつなぐグローバル大学Kumamoto」事業の目標達成に向け、国際化推進機構及び国際化推進センターの改組により、新たにグローバル推進機構、グローバル教育カレッジ及びグローバル交流支援オフィスを設置する。学部学生や留学生等を対象とした英語によるリベラルアーツ等の科目20科目以上及び日本語・日本文化等の科目10科目以上を新たに提供するとともに、地域のグローバル交流支援や高大連携を通じた早期グローバル教育等の取組を進める。	おおむね良好	
3-3-1-2	外国人教員・研究者の受入を拡大するとともに、秋季入学の実施拡大など、教育環境を整備する。	おおむね良好	
本学の特色ある分野を中心として、諸外国の研究機関との研究連携を強化することにより、研究の国際的な卓越性を高める。		おおむね良好	
3-3-2-1	研究者交流を大学として推進するために、国際的研究ネットワーク等を充実させ、国際的研究環境を整備する。	おおむね良好	
3-3-2-2	アジアをはじめとした世界諸国において、高等教育の発展、研究レベルの向上、並びに人材育成に貢献するために、国際共同研究や国際協力事業等を展開する。	良好	優れた点
教育・研究の国際化を支える環境の基盤整備を進めるとともに、大学情報の海外への発信等を充実させる。		おおむね良好	
3-3-3-1	グローバル推進機構が中心となり、学内文書の英語・中国語・韓国語等への多言語化やワンストップサービスをはじめとする国際化に対応した留学生・外国人研究者への支援環境の整備を強化する。	おおむね良好	
3-3-3-2	本学の海外戦略重点地域である環黄海諸国、ASEANをはじめとする東南アジア、インド、サブサハラ・アフリカ、豪州及び欧米諸国などにおいて、海外拠点の整備を進めるとともに、本学に留学した学生の組織化及びそのネットワークを活用して、教育・研究に関する取組を世界に向けて発信する。また、国立六大学国際連携機構の枠組みを活用して、共同での留学生フェアやセミナー等を年間2回以上開催し、海外での広報やリクルート活動を積極的に推進する。	おおむね良好	

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について

(1)	<p>第2期中期目標期間においては、感染領域や造血領域等で国際的に卓越した研究を推進するとともに、国際通用性の高い研究者等を育成するための計画を進めている。平成27年度に設置した国際先端医学研究機構を中心に、国際公募による外国人教員、テニユアトラック教員の採用や年俸制・混合給与制の導入等、ガバナンス改革に取り組んでいる。また、オックスフォード大学（英国）等から研究者を招へいして、感染領域や造血領域等の国際的に卓越した先導的研究を行っている。当該機構では、公用語として英語が用いられており、オープンラボでの分野融合による国際共同研究活動に大学院生を参画させることで、国際通用性を有する研究者としての能力育成に取り組んでいる。</p>
-----	---